

# 1. 学校適正規模推進の流れ

## 国の動向

国は、市町村の適正規模推進を後押しするため、小・中学校の統廃合の適否等について教育的な観点から判断する際の指針と財政的支援策の準備を進めています。

経済財政運営と改革の基本方針 2014（平成 26 年 6 月 24 日閣議決定）

(略) 学校規模の適正化に向けて、距離等に基づく学校統廃合の指針について、地域の実情も踏まえつつ見直しを進める。

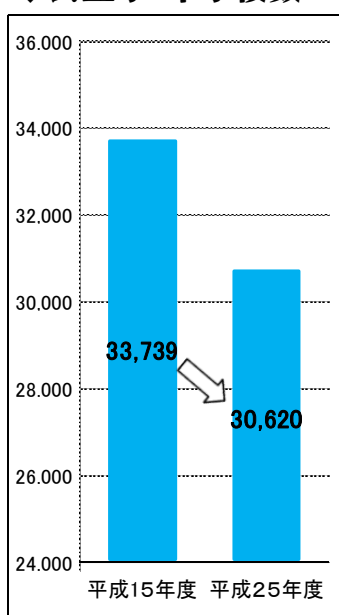
今後の学制等の在り方について（平成 26 年 7 月 4 日閣議報告）

[教育再生実行会議第五次提言]

学校が地域社会の核として存在感を発揮しつつ、教育効果を高めていく観点から、国は、学校規模の適正化に向けて指針を示すとともに、地域の実情を適切に踏まえた学校統廃合に対し、教職員配置や施設整備などの財政的な支援において十分な配慮を行う。国及び地方公共団体は、学校統廃合によって生じた財源の活用等によって教育環境の充実に努める。

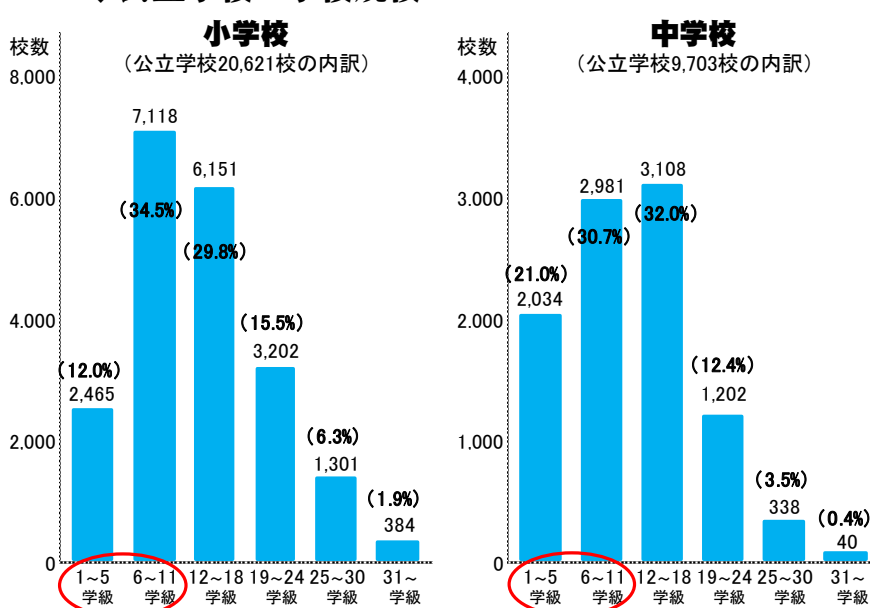
## 公立学校の統合推移と小規模校の数

### ◆公立小・中学校数



### ◆公立学校の学校規模

※平成25年 学校基本調査より

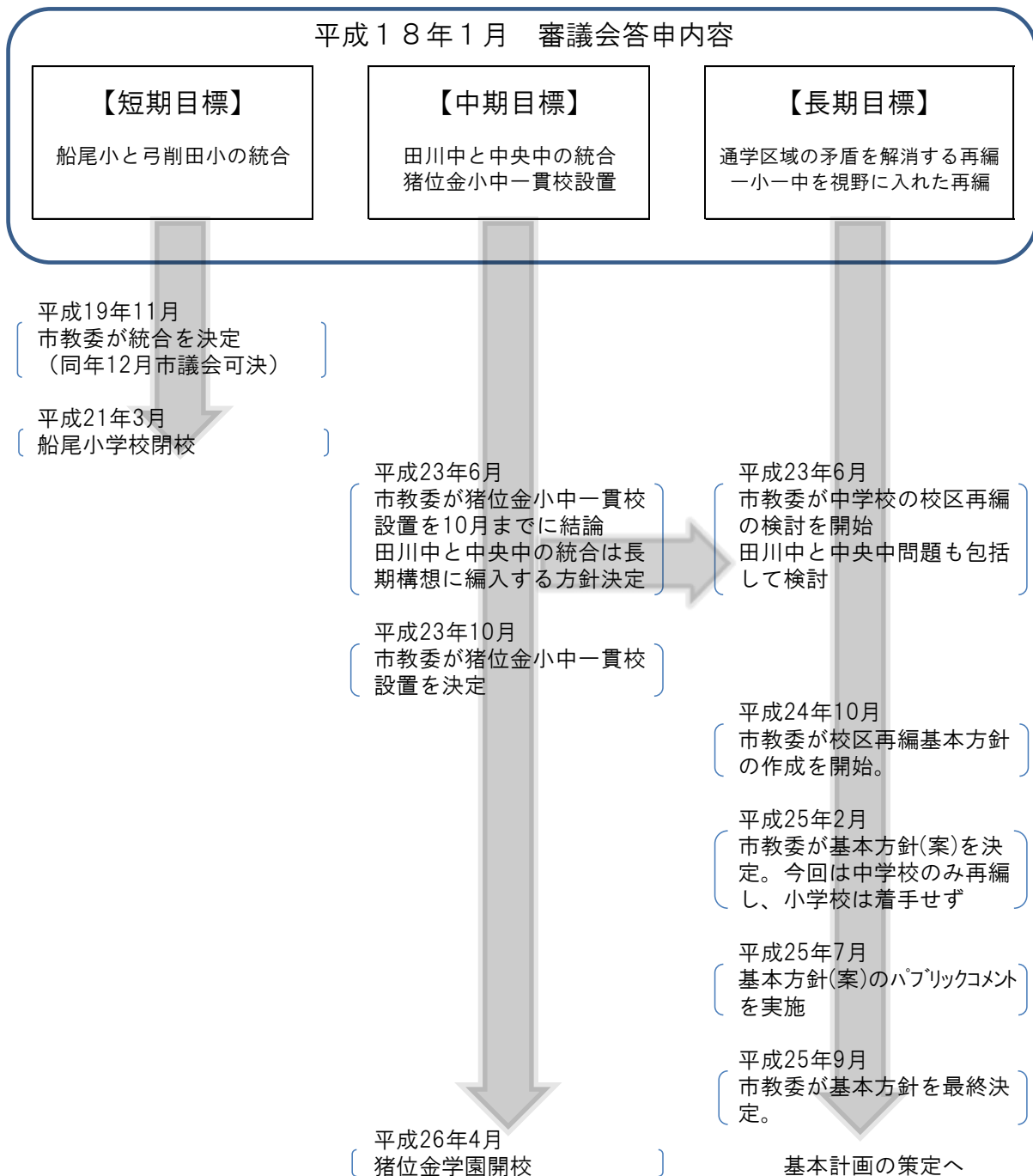


※この10年間で全体の1割にあたる3,000校余りが統合されている。しかし依然、標準学級数に満たない学校が全体の約半数存在している。

## 田川市の経過

時間経過	動き
平成15年12月	田川市行政改革推進委員会41の提言。「学校統廃合については審議会を設置し早急に結論を出すように」
平成17年7月	田川市立学校適正規模審議会を設置。市教委が審議会に諮問
平成18年1月	審議会が「田川市立学校における学校適正規模について」を市教委に答申

◀ 答申内容とその後の流れ ▶



### 1. 学校適正規模推進の流れ

## 1. 学校適正規模推進の流れ

<参考1> 平成18年答申の猪位金中学校に関する記述 [一部抜粋]

また、猪位金中学校も過少規模校としての同様の問題を抱えている。猪位金中学校においては、通学距離が遠いという問題や地域教育コミュニティの中核施設としての小・中学校の存在意義という課題を抱えている。したがって、小学校と中学校の一貫校的なモデル校区として、新たな教育スタイルを研究・検討すべきである。

(1)短期 … (省略)

(2)中期 … 地域教育コミュニティを勘案した統合ならびに検討

○ 猪位金校区を小・中一貫校のモデル校区として検討

<参考2> 猪位金中学校区と隣接中学校の距離について

- ・猪国の集落（坂谷うどん先の集落の最南端）→ 後藤寺中 直線 6.1 km
- ・322号線大谷入口（上山田との境界）→ 後藤寺中 直線 6.7 km

[Question] 通学区域の矛盾って何



1 小学校から2中学校（別々の学校）に通う状況を、通学区域に「矛盾あり」と呼んでいます。

